

# しつけしよっ！

「主体性」の履き違え

2018.12.05

No.41

校長 渡邊 幸二

先日の授業参観の校長講話では、「これからの浜田っ子のために」というテーマで、家庭でのしつけについて時間を割きながらお話をしました。

その中で、しつけがうまい親もそうでない親も、怒ってばかりの親もそうでない親も、実は育てている子どもは同じ「わがままで、言うことを聞かない、自分勝手な子ども」であることをまずお話ししました。

## 子ども「じりつ」を考えて

しつけがうまくいかない親は、親の規範意識やモラルをもとに、子どもをコントロールしようとしている場合が多いと思われます。中にはその日の気分で叱ったりそうでなかったりする親もいます。つまり「親が子どもの生活をコントロールしようとしている」のだと思います。それでは、子どもは親の顔色を窺って暮らす、あるいはいちいち親に判断をゆだねる**依存した子ども**になるでしょう。また、子どもに判断基準が育たないとすれば、困ったことをまるでモグラたたきのようにしでかすことでしょう。ですから当然、親は「イライラ」します。

一方で、お子さんを上手に育てている親は、おそらく子どもの「じりつ」を意識して子育てしていると思われます。以前、酒田南高校長の中原浩子先生が本校でのご講演の中で、右のようなお話をしてくださいました。私たち親や教師に課せられた使命は、子ども

を「**社会に役立つ状態でお返りする**」ことであると……。『自立・貢献』というキーワードは、学校教育でも、子育てでも目指すべき理念であるということです。つまり、子どもが「**じりつ(自立・自律)**」した人となるような子育てをしていくことで、いつもイライラしなくて済む、子どもが一丁前に成長していく子育てとなるということです。

家庭の「しつけ」の基本

<p><b>叱ることが多い イラっとする！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●言うことを聞かない</li> <li>●だらしない</li> <li>●ゲームばかり</li> <li>●片づけない</li> <li>●……</li> </ul>	<p>子どもは同じ</p> <p>親の対応の違い</p>	<p><b>叱ることがない 笑顔でいられる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●言うことを聞かない</li> <li>●だらしない</li> <li>●ゲームばかり</li> <li>●片づけない</li> <li>●……</li> </ul>
--	------------------------------	--

家庭の「しつけ」の基本

<p><b>叱ることが多い イラっとする！</b></p> <p>●言うことを聞かない 何回も言わないと… (何回言っても同じ) 親が生活をコントロールしようとしている</p> <p><b>依存</b></p>	<p>子どもは同じ</p> <p>親の対応の違い</p>	<p><b>叱ることがない 笑顔でいられる</b></p> <p>●言うことを聞かない 子どもが考える (失敗や間違いもするけど) 子どもが自分で生活をコントロールしようとしている</p> <p><b>自立</b></p>
---	------------------------------	---

中原浩子先生ご講演より

子どもは「(天からの)授かりもの」  
「あなた」のものではない

**(二十歳になったら)社会に役立つ状態でお返りする  
一丁前の人**

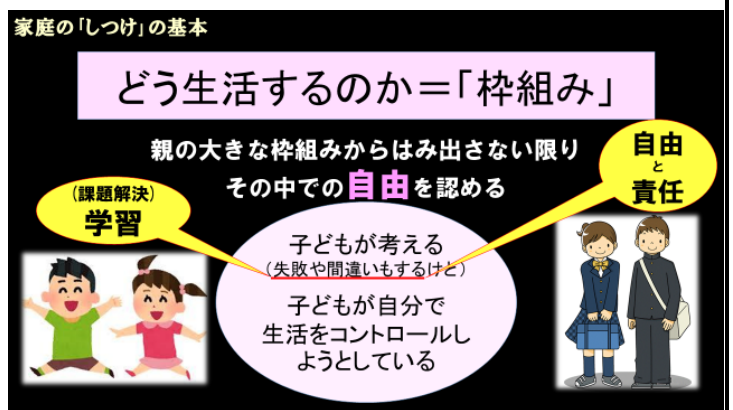
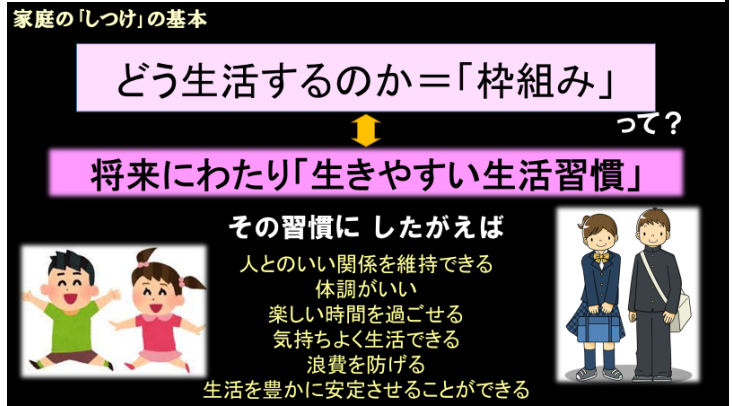
家庭の「しつけ」の基本      学校教育の基本

# 子どもが自分で生活をコントロールする

“子どもが自分で生活をコントロールする”と言うと、「そんな自由に判断させていたら、子どもは好き勝手に暮らす！」と反論される方がいるでしょう。当たり前です。おそらく気に入らないと暴力をしたり面倒なことから逃げたりと、本能のおもむくままに生活する子どももいて、親としては大変困ることは目に見えています。そういう姿は「自由」や「主体性」とは全く違うものだと考えます。

子どもが自分で生活をコントロールするための判断の拠りどころがなければ、何が良くて悪いのか考えようがありません。「子どもが考える」ための生活の「**枠組み**」、ルールというものをきちんと入れていかなければ、いつまでたっても「もじゃね子ども」のままでしょう。

菅原裕子氏によれば(「子どもの心のコーチング」リヨン社刊)、その枠組みは「**将来にわたり生きやすい生活習慣**」であるということです。「花壇を踏んではいけません」と教えるだけでなく、そのルールが「**人とのいい関係を維持できる**」ことや「**気持ちよく生活する**」ために必要なことであることなどまで考えさせることです。「3になったら戻ってくる」を教えても、その子どもがその行動の持つ意味がわかっていなければ「**約束の時間を守る**」ことや「**責任を果たす**」という大事な規範意識を学べないままです。その大元のルールとなる「**生きやすい生活習慣**」を入れることができれば、いろいろ失敗はあるでしょうが、自分なりに判断して、責任を果たしたり自由を手に入れたりできるはずです。



私たちの浜田小学校はどうでしょう。そういうルールや生活習慣が入っていないと思われる行動を取る子どもがけっこういるように思われます。子どもに何でも自由に判断させ行動させたら、きちんとルールを守ろうと生活している子どもたちに不満がたまり、学校が安定するわけがありません。その学級もやがて崩壊の道を辿るはずです。

学校という小さな社会で、お互いに気持ちよく生きていくために必要なルールや生活習慣(浜田スタンダード?)をしっかりと守った上で、つまりその枠組みの中で自ら考え判断し行動していくような生徒指導が絶対に必要です。